この春　ご勇退される

稚内の教育を牽引して下さった2名の校長先生

座右の銘 & 忘れられない実践・エピソード & 稚内市の先生方へのメッセージ

昨年のアンケートで「校長先生やベテランの先生たちの武勇伝や教育観を聞かせてほしい」というリクエストが多数寄せられましたので、この春に御勇退される校長先生方にお願いしました。

①座右の銘

継続は力なり

稚内港小学校

野口　憲一　校長先生

②実践の中から

稚内市での教育活動では、やはり天北小中学校の開校準備から開校を迎えた２年間がいろいろな意味を持って心に残っています。平成１３年４月、沼川中学校の教頭として赴任し、すぐに閉校協賛会の事務局を任され閉校に至るまでの諸業務に取りかかりました。開校協賛会も同時進行していましたので、それこそ忙しいと口に出しても怒られないくらい大変でした。しかし、この忙しい二年間では、学校と地域の結びつきの大切さをしっかりと学ばせて頂きました。また、教科指導では、いきなり中三理科を担当することになりビックリでした。しかも、校舎改築のため閉校した上声問小学校を借りていましたので理科室はなく実験なんてできる状況ではありませんでした。それでも何とか頑張った結果、入試の理科では結構いい成績だったのでほっとしたことを思い出します。

③頑張っている稚内の先生方へ

いよいよ新学習指導要領（小学校）が完全実施される平成２３年度がやってきます。それぞれの小学校では、それに見合った教育課程編成にかなりの力を注いだことと思います。私の教師生活を振り返ってみても今ほど複雑で大変な教育界はなかったと思います。社会（政治）の変動、そこからくる教育改革には驚くほどです。しかし、私たち教師は、それに動揺してはなりません。稚内市が掲げている交流から連携、連携から一貫への教育に向かって邁進してください。そして、稚内の先生方は、「教師としての情熱」を燃やし続けることを期待しています。

①座右の銘

教育はチームカで

稚内東小学校

加藤　良平　校長先生

②在職中の実践について

＜頓別小学校で＞

　何と言っても創作劇「頓別物語」です。地域の方々と一緒に取り組んだものです。

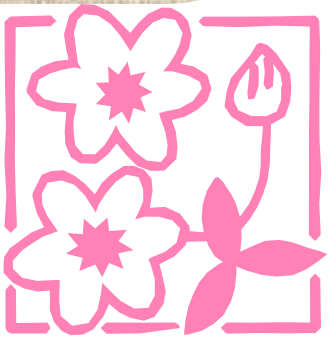
　子ども達のために、保護者や地域の方々と一緒に取り組むことは、本当に楽しいことです。自分も楽しくて、その上子ども達のためになる実践ですから、言うこと無しです。

＜中央小学校で＞

　大変な子ども達とたくさんつきあいました。担任だけの力ではどうしようもありません。先生達の力合わせはもちろん、職員の方達との力合わせを大切にしました。用務員さんや給食配膳員さん、交通指導員さん達と大変な子どもの状況について話し合いをし、学校の方針を伝えました。「先生方はもっとビシッとやればいいのに。」と思っていた方もいたようですが、話すことで納得していただき、先生達と同じように言葉がけをしてもらいました。給食を食べながらや立ち話で子どもの様子を頻繁に交流できるようになりました。

③市内の先生達に向けて

　教育活動は、集団的な営みでなければなりません。子どもの見方、とらえ方も集団的でなければなりません。そのためには先生達が心おきなく話し合える関係になっていることが大切です。子ども達のために何でも話し合える教職員集団、個々の悩みも話し合える教職員集団が教育を進めていく力になります。

　子どもに仲良くなることを求める私たちですから、私たちがうんと仲良くなりましょう。

　野口校長先生、加藤校長先生、ありがとうございました。
お二人のほかに、中央小学校の上村一積先生も今年の３月に退職されます。
（当研究所員でもあり、今回の取材の方は辞退されました。）
「もう退職！」「さびしい・・」という多くの声が聞こえてきそうです。
本当にさびしく、心細い気持ちになりますが、今まで奮闘されてきた先生達に感謝しながら、また、みんなで力を合わせて頑張っていきましょう。